

■ 上徳山の里山（上徳山町）



■ 環境の特徴

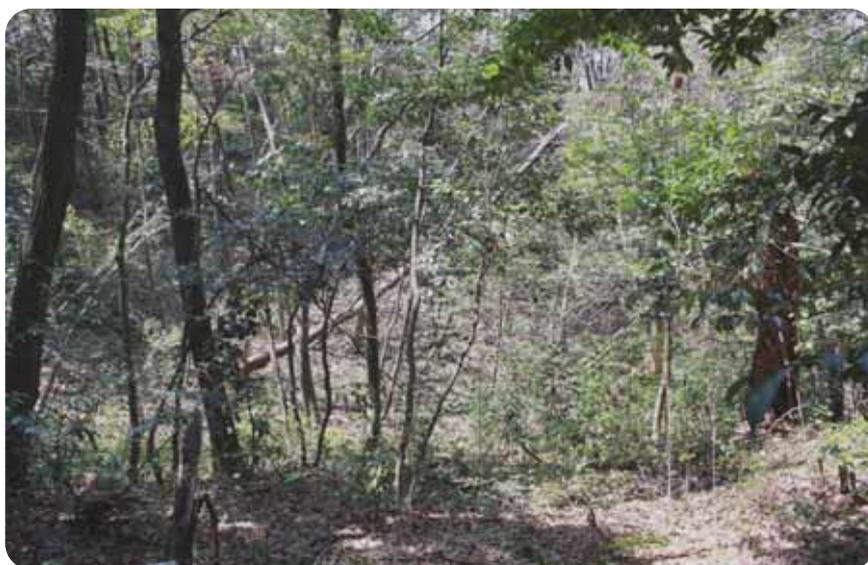
上徳山集落はいしかわ動物園近くの山あいの入口に位置し、周囲は標高約100mの低い山に囲まれています。集落の奥の東側と南側に2つの谷があり、東側は大きく開けた明るい谷で、南側は小さな谷です。この2つの谷にそって休耕田が広がっていて、今でも集落の人たちによって草刈り等の管理がなされています。休耕田のほか用水路、畑地、草地、二次林、植林地が残されているうえ、谷の上流部にはため池や湿地もあり、多様な自然が存在する典型的な里山環境が維持されています。しかし、近年、休耕田の乾燥化、草地化が進み、湿地環境が少なくなってきました。

位置図





休耕田とその湿地には草地性昆虫や水生昆虫が多い。



林の縁や林内にはチョウ類やコウチュウ類が多い。

■ すんでいる昆虫の特徴

2001年と2002年に行った調査では867種が見つかり（富沢ほか、2004）、陸生、水生昆虫とも多くの種がすんでいることがわかりました。チョウ類は54種、トンボ類は42種が確認でき、すぐれた里山環境にすむ種数に匹敵しました。また、ネブトクワガタやクロゲンゴロウ、ギフチョウのような貴重な種が生息することから県内でも種多様性の高い里山であるといえます。昆虫類以外ではアベサンショウウオやサシバが生息することも知られています。

しかし、休耕田の水たまりの乾燥化が進み、トンボ類などの水生昆虫が少なくなってきました。



オニヤンマ



7月中旬から出始め、8月に最も多くなり9月まで見られます。



■生態

成虫は夏期に道や水路沿いを行ったり来たりして飛んでいます。これは産卵場所やメスを他のオスに取られないようにパトロールしているのです。小川などの流れのある場所で産卵し、幼虫は5cm近くまで育ちます。

■体の特徴

体長は約9cmで日本のトンボでは最大です。体は黒色と黄色のまだら模様で、複眼が光沢のある深い緑色で美しいです。



ハラビロトンボ



5月上旬から現れ、6月に最盛期となり、8月上旬には姿を消します。



■生態

幼虫は休耕田の水たまりのような浅い湿地にすんでいて、池にはいません。羽化した成虫は遠くへ行かず、近くの草地で過ごします。上徳山では休耕田の乾燥化により、本種は減少しています。

■体の特徴

体長3.5cm前後の中型のトンボで、腹部が短くて太く平べったいのが特徴です。体色は黄色で黒い条があります。オスは成熟すると全身が黒くなり青白い粉を生じることもあります。

ハルゼミ

見られる時期

成虫は4月下旬から6月上旬まで鳴いているので、ハルゼミと呼ばれます。



■生態

マツと関係の深いセミでマツ林やマツの混じった雑木林にすんでいるので分布は限られます。成虫は松の樹皮に卵を産み、幼虫はマツの根から養分をとります。マツの高い所に止まっているので、とても見つけにくいセミです。

■体の特徴

体長約3cmのやや小型のセミです。ハネが透明で体が黒いです。

クロゲンゴロウ

見られる時期

成虫は一年中いますが、活動時期は5月から10月です。



■生態

水生植物の多いため池や湿地にすんでいます。すむ場所が限られるので石川県の絶滅の恐れの高い種に指定されています。成虫は夏に水草に産卵し、幼虫はミズムシやヤゴなどの水生小動物を食べて育ちます。

■体の特徴

体長が約2cmで全身が黒色の大型のゲンゴロウです。後ろ足が幅広で長く、オールのように使って泳ぎます。



オオスズメバチ



働きバチは6月から10月まで見られます。



■生態

女王バチで越冬し6月から巣作りを始め、働きバチを増やします。巣は土の中や木の根元に作ります。成虫は樹液や腐った果実を食べますが、幼虫のエサはさまざまな昆虫の幼虫や成虫で、他のハチの巣を襲うこともあります。攻撃的で毒性が強いのので注意しましょう。

■体の特徴

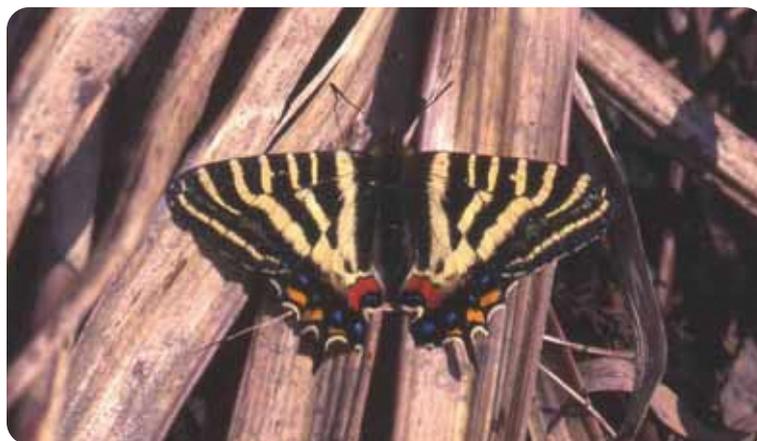
女王バチは5cmにも達し、スズメバチの仲間では世界最大です。頭はオレンジ色、胸腹部は黄色と黒色のしま模様です。重く低い羽音は迫力があります。



ギフチョウ



一年に一回だけ、木々が芽吹く早春に発生します。能美市では3月下旬から現れ、4月下旬まで見られます。



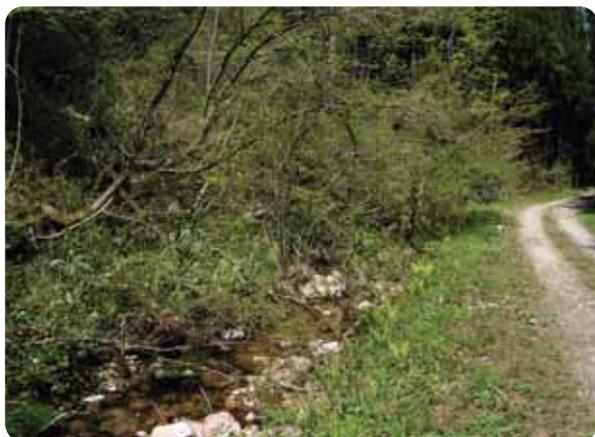
■生態

成虫は早春の雑木林周辺の低い所をゆるやかに飛び、スミシなどの花を訪れます。幼虫はヒメカンアオイの葉を食べて育ち、蛹で越冬します。開発や里山を管理しなくなったので、少なくなり、絶滅の恐れの高い種に指定しています。

■体の特徴

ハネを広げると約5cmのアゲハチョウの仲間です。ハネは黄色と黒色のまだら模様で青や赤の紋があるきれいなチョウです。

上徳山周辺は起伏が少なく、農道も整備されていて安全に観察できる里山です。多様な自然環境があるので、四季を通じて、また、目的に応じてさまざまな種類の昆虫が観察できます。



林縁

- ・ 林の縁には4月中下旬にギフチョウやツマキチョウなどの春のチョウが飛んでいます。また、農道にはハンミョウが止まっています。
- ・ 林の中にあるコナラなどの樹液には夏になるとカブトムシやクワガタ類が集まっています。8月から9月には5種のセミ類が合唱しているので、名前を調べるには良い時期です。



休耕田の水たまり

- ・ 水生昆虫やトンボ類は休耕田の水たまりや南側の谷の小池で観察できます。タモアミや金魚アミで水の中をすくってみましょう。



農道周辺

- ・ 秋には、畑の草花や東の谷の草地のサフヒヨドリにチョウ類やハチ類などたくさんの昆虫が集まります。この時期はアカトンボの仲間も多いです。また、バツタの仲間は農道を歩くだけで観察できます。
- ・ チョウ類やトンボ類が最も多くなるのは6月で農道をゆっくり歩き回れば、それぞれ10種類以上見られます。

■ 保全のポイント

集落の人による草刈りは陸生昆虫にとってすみよい環境を提供しているので今後も続けてほしいものです。ここ10年で休耕田の乾燥化が進んで浅い湿地が少なくなり、トンボ類や水生昆虫のすみ場所が減っているので、新たな生息場所を作りたいものです。